

質疑①

69810

公立高畠病院 大場悠己

貴重な発表ありがとうございました。信念というケースの意志が強く表れる部分に着目しての介入方法でとても勉強になりました。今回使用された OBP2.0 というのは作業活動を通して行う評価・治療法ということでしょうか。勉強不足で申し訳ありません。

回答

大場先生いつもお世話になっております。貴重なご質問感謝申し上げます。OBP2.0 は決まった評価バッテリーがあり、初期評価と最終評価に評価バッテリーを用います。評価バッテリーは作業機能障害を中心とした項目があり患者様の評価に明確な指標を促す理論です。よろしくごお願い申し上げます。参考文献 精神障害作業療法のための作業機能障害の種類に関するスクリーニングツールの開発 京極真、寺岡睦 日本作業療法学会抄録集 51 回 OH4 2017 年 9 月

質疑②

2719

三友堂リハビリテーションセンター 船山真紀子

精神科の臨床から離れているため勉強不足で恥ずかしいのですが、「信念対立」とはどのような状態なのでしょう。

回答

船山先生いつもお世話になっております。貴重なご質問感謝申し上げます。信念対立は具体的には多くの場合多職種の間で人間感をあらわしてあります。臨床場面におきましては特に看護師の患者様への考え(捉え方)と作業療法士の患者様の考え(捉え方)のズレが生じた場合をいいます。信念対立が生じると多職種の連携がスムーズにいかない状態となり、この状態が長く続くと患者様に不利益な状態にさえなりうる場合もあり大変困難なケースにおちいります。よろしくごお願い申し上げます。参考文献 信念対立解明アプローチ入門 チーム医療・多職種連携の可能性をひらく 京極真 中央法規出版 2012 年 9 月 (ISBN 4805837225)